

2月末の民間在庫 前年比36万トﾝ減少

4年産古米は15万トﾝまで消化

農水省はこのほど、水稻うち米の令和6年2月末における民間のコメ在庫を全国で合計244万トﾝと発表した。前年同月末より36万トﾝ(13%)少ない。減少幅が1月末よりも5万トﾝ広がっている。

2月末在庫のうち5年産は221万トﾝで、前年同月の4年産と比べて19万トﾝ(8%)減少。1年古米の4年産は15万トﾝで、前年同月の3年産を11万トﾝ(42%)下回っている。4年産古米は米穀周年供給・需要拡大支援事業(周年事業)対象の先送り販売米穀(後倒し拡充支援25万トﾝ)の一部で、順調な消化状況にある。また年産を特定できない未検査米が8万トﾝあるが、前年同月に比べれば6万トﾝ(43%)少ない。

全農・道県出荷組合など出荷段階の在庫は202万トﾝとなっており、前年同月より33万トﾝ(14%)減少。このうち5年産が190万トﾝで、前年同月の4年産より20万トﾝ(10%)少ない。4年産古米の在庫は10万トﾝとなり、前年比で9万トﾝ(47%)減少し、ほぼ半減している。未検査米が2万トﾝあり、前年同月より5万トﾝ(71%)少ない。

コメ卸など販売段階にある在庫は前年同月を3万トﾝ(5%)下回42万トﾝで推移している。このうち5年産が31万トﾝで、前年同月と変わらず。4年産古米は6万トﾝで、前年同月1万トﾝ(14%)下回っている。未検査米の在庫が5万トﾝあり、前年同月より1万トﾝ(17%)少ない。

過去6年間における2月末の民間在庫(出荷段階と販売段階の合計)は平均で277万トﾝと算出できる。今年2月末の在庫は、これより33万トﾝ(12%)少ない。

在庫は北海道・新潟産の順

産地別にみると、5年産の在庫は①北海道産22万3300トﾝ(前年同月の4年産比13%減)②新潟産19万7900トﾝ(5%減)③秋田産16万7800トﾝ(6%減)④山形産14万0500トﾝ(8%減)⑤福島産13万6000トﾝ(2%減)——など主産地が多い。

4年産古米在庫は、①北海道産1万6400トﾝ(前年同月の3年産比49%減)②新潟産1万5600トﾝ(47%増)③山形産1万1900トﾝ(17%減)④岩手産1万0200トﾝ(52%減)⑤宮城産9800トﾝ(58%減)——など。引き続き主産地中心だが、前年同月比はバラついている。